

2日目

(60分)

【演習】

(受講者用)

情報の収集とチームプレイの基本

— オリエンテーション —

社会福祉法人 あゆみ園

林田 好弘

演習のねらい

この時間は、グループ活動が円滑に進むよう、簡単な課題に取り組み、意見交換がしやすいチーム作りを行なうことを目的とします。合わせて、今後実施する演習の進め方について、体験を通し、予行練習を行います。

ポイント

- ① チームの各メンバーの人柄をお互いに理解する
- ② チーム内で意見交換がしやすい雰囲気作りを行う
- ③ 演習の基本的な進め方を、体験を通して学ぶ

演習の流れ

時 間	内 容
9:40~9:45 (5分)	演習の説明
9:45~9:50 (5分)	[ペア] 推理の課題 (演習①)
9:50~10:00 (10分)	[ペア] 聞き取り修正 (演習②)
10:00~10:25 (25分)	[グループ] ディスカッション (他己紹介)
10:25~10:40 (15分)	発表 ・ 全体のまとめ

演習① : 視覚的情報だけでペアの相手の人物像を推理する

演習② : 聞き取りにより、演習①の情報を修正する

演習① | 推理の課題

- ペアを作ります。(2人1組)
- ペア同士隣または、正対に座って下さい。
- 合図の後、5分間ペアを組んだ相手が「どんな人物であるか」を想像して下さい。
- 一言もしゃべらず、視覚的な手がかり(観察)だけで想像して下さい。
- なお、その印象については、オリエンテーション用紙の「第一印象」の欄に書き込んでください。

演習② | 聞き取り修正 (5分×5分 10分間)

- 演習①の推理が合っていたかどうか、ペア同士で互いに質問しながら確認します。
- ペアのどちらか最初に質問をし、答え合わせをします。(5分間) **※スタートと終了の合図をします**
- 次の人質問をし、答え合わせをします。(5分間)
※スタートと終了の合図をします
- 質問で聞き取った情報は、簡潔にシートの「聞き取り」欄に記載し、グループ内でその人の紹介ができるよう準備して下さい。

ディスカッション(他己紹介) 約10分

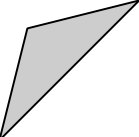
- グループ単位でディスカッションを行います。
- 「司会者」「記録」「発表者」を決めてください。
(30秒)
- 順番に、ペアの相手をグループに紹介してください。(他己紹介)制限時間は1人90秒です。
司会者はタイムキープしてください。
- このペアの紹介の時間については、「記録者」は記録する必要はありません。

3つのテーマに沿ったディスカッション

司会者を中心に3つのテーマに沿ってディスカッションを行います。

- 司会者は、しっかりと3つのテーマ全ての意見交換ができるよう進行に気を配って下さい。
- 記録者は、ディスカッションの内容を要約筆記して下さい。
- 発表者は、記録に基づき発表できる準備をして下さい。

3つのテーマに沿ったディスカッション 約10分

- ① 第一印象で容易に想像できた項目と難しかった項目の特徴は？
 - ② 第一印象が難しい項目を当てた人の着眼点は？
 - ③ 第一印象が容易な項目を外した人の着眼点は？
- 

発表

2～3のグループに発表してもらいます。

発表する内容

- ① 第一印象で容易に想像できた項目と難しかった項目の特徴は？
- ② 第一印象が難しい項目を当てた人の着眼点は？
- ③ 第一印象が容易な項目を外した人の着眼点は？

まとめ ① | 演習の進め方

- この研修における演習は、原則この流れで進めます。
演習の説明 → 演習(何らかの課題)実施 → グループディスカッション
→ 発表とまとめ
- グループで演習を進めるにあたっての注意点は…
 - ① 時間厳守
 - ② 演習の説明で内容をしっかり理解する
 - ③ 役割を明確に(司会、記録、発表等)
 - ④ グループディスカッションは、テーマに沿って
- グループディスカッションは積極的に
 - ①司会者はタイムキープしながら、グループ全員の意見を引き出すよう努力して下さい。
 - ②ディスカッションは、テキストに記された「テーマ」についてグループ内で意見交換するものです。(自由な討論ではありません)
 - ③記録者は要約筆記を行い、発表者にディスカッションの要旨を的確に伝えて下さい。

まとめ ② | 情報の収集

- 私たちは、視覚的な手がかり(容姿・身なり・持ち物・動作等)だけでも、これまでの人生経験等を参考に、それなりの情報収集と解釈を行っている。つまり、日常的にアセスメントしています。
- アセスメントは、何らかの経験や知識を基に、仮説を立て、事実としての(客観的な)情報を整理・解釈する過程でもあることを、短い時間の演習で実感してもらいました。
- しかし、わずかな、偏った情報を基にしたアセスメントには、思い込みによる間違った解釈がたくさんあることも経験出来たと思います。
- お互い、聞き取りを行うことで、誤りを修正できてと思います。
- 経験が少なく、専門的な勉強をされてこなかった人にとって、強度行動障害のある人の日常的な振る舞いについて、誤った解釈をたくさんしてしまいます。視覚的な手がかりだけで、その人の人柄すべてを想像するようなものです。
- 強度行動障害のある人の日常的な振る舞いには、その障害特性に何らかの原因があり、そして周囲の環境づくりの失敗があるのです。演習の聞き取りで誤りを修正したように、この研修で、強度行動障害のある人の日常的な振る舞いに関する、このような背景について学んで下さい。